

親切運動の取組について

高岡市立福岡小学校

児童数 449名

1 親切運動の取組の紹介

(1) 児童会活動

全校児童が気持ちよく学校生活を送ることができるように、運営委員会の毎朝の挨拶運動、環境委員会の鯉の餌やり、保健委員会のシャボネット交換等、各委員会が常時活動を行っている。また、季節に応じて各委員会の特色を生かした取組も行った。

令和7年度は、ボランティア委員会が花の水やりや「草むしり王決定戦」等を通して校内環境を整えたり、赤い羽根募金やベルマーク収集活動への参加を呼びかけたりした。運営委員会では、友達のすてきなところを見つけて広める「思いやりの花運動」を行った。カードが届いて嬉しそうな姿や、友達のよさを見付け、何枚も書く姿がみられ、全校みんなで思いやりの気持ちを広げる機会となった。



(2) 交流活動

令和7年度では、令和6年度に引き続いて学年の垣根を越え、学習したことを他学年へ伝える交流活動を積極的に行った。4年生は、総合的な学習の時間に学んだ地球温暖化防止の取組について3年生に発表した。節電や節水等、地球にやさしい行動をしてほしいと願い、学習専用端末を効果的に活用して伝えた。5年生でも同様に、総合的な学習の時間に学んだ防災について地域の方へ発表した。1年生は、年長児を招待し、生活科「秋見つけ」で学習したことを生かし、一緒に遊ぶ時間を設定した。自分たちが考えた遊びに楽しそうに参加する姿を見て、とても嬉しそうだった。特に、6年生が企画・運営を行った全校オリエンテーリングは、全校みんなが楽しく過ごす時間となった。上級生が下級生を思いやり、言葉や態度を考えながら接するなど、互いの心を通わす場となった。



2 親切運動に取り組んで（○成果 ・課題と今後に向けて）

- 児童会活動では、各委員会の特色を生かした活動を設けることで、互いのよいところを認め合う雰囲気につながった。
- 学習したことを基に学年、学級、地域へと発信する場を仕組むことで、子供が主体となって活動することができた。また、相手意識をもって準備し、運営することで、たくさんの人と関わりながら他者を思いやる心や態度が育った。
- ・今後も活動を継続しながら、全校で温かい雰囲気を醸成するとともに、様々な人との関わりを大切に、相手を思いやる心を育てる活動を進めていきたい。